

日本海秋田市の土崎から北前船がもたらしたものの全国版第9号

平成28年10月3日赤穂市教育委員会提出予定



土崎港曳山まつり



秋田市観光案内人の佐藤節子さん



坂越船渡御祭

今回のご当地自慢は秋田市の「土崎神明社祭の曳山行事」です

秋田市観光案内人の佐藤節子さん(写真)は土崎生まれで、根っからの土崎っ子です。その佐藤さんの協力を頂いて、瀬戸内海の坂越のまち並を創る会から、国の重要無形民俗文化財の土崎港曳山まつりについての話です。佐藤さんは「土崎神明社祭の曳山行事」は毎年7月20日・21日の2日間行われ、「土崎港曳山まつり」の愛称で親しまれ、18世紀から守り継がれてきた祭典に誇りと自信をもって話していました。

「土崎港曳山まつり」は、この11月にユネスコ無形文化遺産登録に、国の民族無形文化財の66ある祭礼の中から「山、鉦、屋台行事」のテーマで33の祭礼が一括審議される中にこの「土崎神明社祭の曳山行事」が入っています。

佐藤さんから頂いた、港曳山祭りのしおり(土崎経済同友会創立60周年記念号)には、秋田市長の祝辞があり、「文化遺産への登録が実現すれば土崎港の曳山祭り等、国の無形民族文化遺産を国際社会にまで発信する事になる」と述べられていました。この言葉からまだ半分が残っている坂越の船祭り等33ある国無形民族文化財の祭礼も世界から注目されることとなり、いずれは同じく文化遺産になるかもしれません。

この祭りがある、土崎は北前船寄港地で、酒田、加賀、秋田等で来年1月から2月にかけて北前船寄港地の日本遺産登録の申請を予定している事を、秋田市役所で副参事の熊地さんから聞きました。また、土崎港曳山まつりが北

前船とどんな関係なのか佐藤さんの紹介で、土崎図書館の桜田館長を訪ねお聞きしました。

この祭りを寄進等を通じて支えていたのが北前船にかかわった人達だったらしく、廻船業で繁栄していた坂越の船まつりの構図と同じだと感じました。また祭りのお囃子の掛け声等は遠く熊本や江差の祭りのお囃子と似ていて、これは北前船が伝えたものだと考えられます。

土崎の北前船の足跡について佐藤さんから、金比羅神社、多聞院、嶺梅院、本住寺そして虚空蔵尊堂には北前船の船乗りたちが寄贈した大きな自然石の話の紹介がありました。

また満船寺に難破した人たちの合葬墓がある事も聞いていたので後日、住職に話をお聞きに伺いました。それは瀬戸内坂越に残る黒崎墓所に秋田の人のお墓が2つあったからで、秋田にも瀬戸内海の人のお墓があるかも知れないと思ったからでした。しかし住職は合葬墓は酒田、加賀、越後の人が殆んどだと言っておられました。

終わりに秋田市は去年から酒田市と観光で連携している事を熊地さんから聞きました。

ネットにあった秋田魁新報の記事には、今年初めて5月19～21日に開かれる「酒田まつり」に、秋田市の「土崎神明社祭の曳山行事」が参加した事が詳しく述べられていました。酒田の、播州坂越の田淵庄三良らが寄進した常夜灯がある日和山公園での史上初めての試みは、北前船寄港地フォーラムがもたらしたものだと思います。この連携が全国の北前船寄港地へと拡大していけば、地域が連携する日本最大の観光事業に発展する可能性を秘めています。それをつないでいくのが北前船寄港地フォーラムなので、我々坂越まち並みを創る会のような自主的な団体の方々がもっと参加が出来るようになり、また別の切り口である日本版DMOへと発展していけば、更に飛躍が出来るかと秋田に行ってみようと思いました。

矢竹考司 (坂越の祭りと北前船調査委員)

門田守弘 (坂越まち並みを創る会会長)